

JAITI 52

Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundation

◆URL <http://www.jaiti.org/> ◆E-MAIL jaiti@janis.or.jp

JAITIとは、「公益財団法人日本農業研修場協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Institute Foundationの頭文字の略で「ジャイチ」と呼びます。1989年、農業を生活基盤とする、開発途上国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発 行 公益財団法人 日本農業研修場協力団
事 務 所 〒386-0502 長野県上田市武石沖605-5
TEL 0268-85-3465 FAX 0268-85-3583

今日のジャイチ

相変わらず世界のどこかしらでテロ行為による惨劇が報じられています。また、アメリカ大統領の交代をはじめ、社会が大きく変化していく予感のする新年を迎えました。

変化と言えば、この頃のジャイチツアーでのことでした。これまでも何度となくカトマンズを訪れているメンバーが、あることに気づいての一言「静かだね。」初めての参加者には、そんな気づきは無かったかも知れませんが、そう言われてみると確かに「静かになった。」車で溢れかえる市街地はもろろん、山道に至っても、無秩序な走行とけたたましいほどに鳴らし続けるクラクションの音がこれまで当たり前と思っていました。が、必要な場面は別として、あのクラクションの音が聞こえないのです。交差点に立つてきびきびと交通整理をこなす警察官の姿も心なしか力強く見えました。おりしも、インドからトップが来訪しているとの話もあり、その場限りの出来事かは定かではありません。



▲修復作業の姿が見られない歴史遺産

でしたが、「やればできる」少しづつながら変っている姿を、こんな一端から感じさせてくれました。新しい国づくりに、ジャイチも何らかの一翼を担うことができよう、引き続き皆様のご支援を宜しくお願いいたします。

一昨年の四月にネパールを襲った大地震は、カトマンズの目抜き通りを車で走っていても、その爪痕を目にするようなことはさほどありませんが、世界遺産でもあり観光の目玉ともなっている旧王朝時代の宮殿界隈や各所にある寺院建造物は、崩れかけたままであつたり、そこに建物があつたことを偲ばせる基礎部分の形骸を残しているばかりといったものが多く見られます。それでも、中には、最大の仏教寺院と言われるボダナートは、早い時期から仏教徒関係者の力を結集して大規模な修復が行われたことにより、あの特徴的な「目」をあらわした仏舎利塔が甦った所などは良い方で、ほとんどの建物は再興の目処は立っていないように思われます。

農村部においても、緊急措置で支給されたトタンで囲った仮住まいの建物で生活を送っている人たちが、避難所にもまだ被災者の姿が数多く見られており、震災前の生活を取り戻すには、相当の時間を要することになりそうです。

◆学校では
ネパールでは、公立の学校においてもその運営を地



▲肅々と進むボダナートの修復

域に任せる傾向になつてきていると聞きます。教師はもろろん保護者が学校に強く関わらざるを得ないようです。

バシファント学校でも、政府への助成金敷願をはじめ、教員や父兄たち自らが収入に繋がる事業を模索するなどして学校づくりに努めています。が、今回の地震で被害を被った一部の教室の修復について自分たちの力で何とかしているという気持ちは強いものの、思い通りに進んでおらず、レカリ校もトタン板で囲っただけの仮設教室での授業が続いています。

カカニ・ブライター学校では、施設改修はジャイチ



▲レカリ仮設教室

支援者からの救援金により、校舎の修復はほとんど完了し、従前どおりの授業が行われていますが、生徒数の減少は引き続き大きな課題となっており、特色ある学校づくりのため授業方法の研究・研修に取り組んでいます。(2P参照)

▼護岸工事が大々的に展開されて川も心なしか流れが良くなっているように感じる



この間に、経済面でも積極的な形が現れてきています。五・二%の経済成長の方向にあり、納税者たちの人数も積極的に増え、市場も明るい見通しが続いているようです。第二国際空港建設の投資の段取り及びカトマンズとタライ(平地)を結ぶ高速道路の建設についても、著しく進展したと報じています。(ジム・ラルゲルン)

コイララ政府の 百日間

昨年秋の制憲議会議員選挙において、これまで第一党であったマオイストが大敗し、代わって第一党となったネパール会議派(ネパール・コイララ党)のシュシル・コイララ党首が今年二月十日に首相に選任されました。コイララ氏を代表とする政権が公約とした、百日以内での憲法作成の国会意見のとりまとめ、平和と安全、迅速な国家の発展・建設活動の取り組みなどの役割を効果的に果たしていることを、政府が構成されてから百日を経過した五月二十五日に開かれた記

者会見で発表しました。政府の報道官によると、憲法作成の環境を整えられたことが新政府の最も重要な成功だと述べています。制憲議会による憲法作成の日程も出来ており、今後一年以内に政治的な同意を取り付けて憲法作成が完了するものと思われまます。また、現地レベルの選挙もなるべく早く行うために政党間の合意が必要として進めて行くことも述べています。報道官によると、現地レベルの選挙の準備もほぼ整ってきており、闘争による事件の解決および統一・友愛委員の結成のための法律を公布したことも政府の発行した会報で触れています。

カカニ・ライター学校の 生徒寄稿文



《スティブ・シュレスタ》

ライター学校 に学んで

短い間でしたが自分の意識を高めることができました。

きれいで平和な環境で近代的な学習方法を導入した授業が行われるのが、この学校の特徴です。

また、生徒たちは規律を守り勤勉であり、教師たちは協同活動に取り組み、授業ばかりではなくそれ以外

の活動にも積極的で、ヌワコット郡の中ではモデル学校として知られています。僕は二〇七〇年(二〇一三・二〇一四年)のSLC試験を受験しました。自分の学力が向上してSLC試験を受験することができてとても嬉しかったです。

このSLC試験が終わると学生生活も終わります。幼い頃から通った学校と離れると同時に一つの家族のように暮らしていた先生たち、同級生たちと別れるに進学しなければならぬ自分で自分に言い聞かせています。

自分がお世話になった学校のため、将来何かにお役に立つために頑張りたいと思っています。この学校の設立にご尽力されたジャイチ組織と日本の支援者の方々に感謝いたします。大勢の支援者の皆さんのおかげで私のような数多くの子どもたちが教育を受ける機会をいただきました。私はこの学校の卒業生としていつもこの学校の発展のため協力したいと思っています。この学校の教育システムを近代化させたり、この学校の教師になったりしてでもこの学校をネパール中에서도有名になるよう努力したいと思っています。

もっとよい学校に



《スマン・ヨンザン》

人生の十年間、この学校で過ごせたことを誇りに感じています。

僕が学んだこの学校は、現在郡の中で一番良いモデル校となっています。嬉しいことに通りかかる人たちが観光客からも注目され、子どもからお年寄りまで皆が惹かれています。施設、設備、教材、経営などなどすべてが備えられた完璧な学校の一員として僕は誇りを感じます。胸を張って言います「僕はこの学校の生徒です。」と。

SLC試験後、もう学校の門まで行けなくなった僕は悲しいと感じています。人生の一番楽しい時は学生時代と言われます。友達と一緒に楽しく交わり責任というプレッシャーもなく自分の目標に向かって過ごしていたあんな長い時間が過ぎたことに気がつかないでいました。その学校へまた行きたくなるけれど、そう考えても今は自分の目標に

進むことが僕の仕事であり義務です。

僕の学校は最高の学校です。しかし、もっと良い学校にするためには改革も必要だと思います。まず、学校内の平和を保つため先生方が規律正しくなることだと思います。そうすれば生徒たちにためらわぬ物事を忠告することが出来ます。生徒それぞれの話しや願いをちゃんと受け止めること、態度の悪い生徒たちについて厳しく忠告するルールをつくる必要があります。善悪の判断ができるように、愛情を込めて生徒を愛する先生たちがいれば学校は必ず良くなります。僕はそう思います。

また、学校に関係する皆さんによる、学校の設備、教材の発展についての協力も必要だと思います。今年、初めてこの学校のSLC卒業生が出たことは嬉しいことです。将来キャンパスに発展することができれば、この地域の子供たちの明るい将来に大きく貢献するでしょう。学校に運動場と理科実験室も備えられたらもっと良かったと思います。最後に、この学校に理論的な質問だけでなく専門的な教育も加えられるよう願っています。

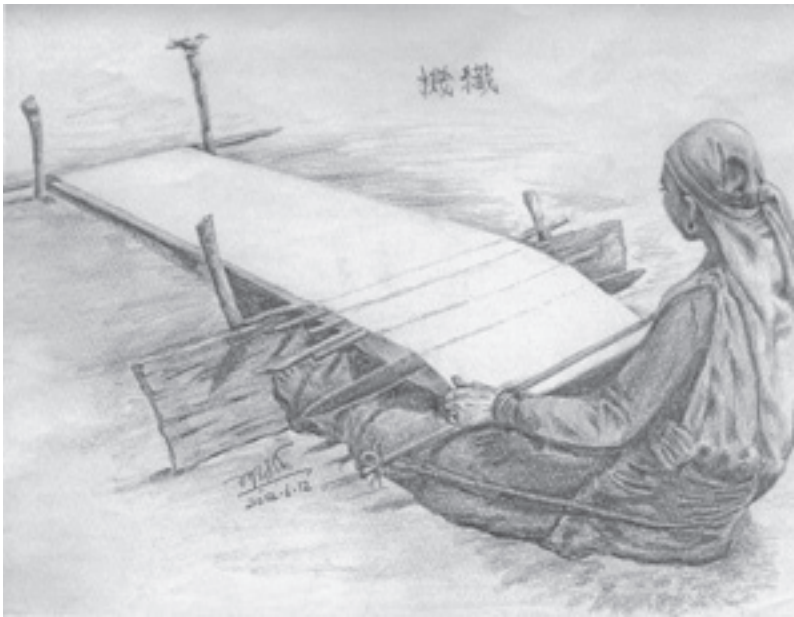
ご協力有難うございました

この六ヶ月の間に、左記の方々より、ご支援を戴きました。お礼申し上げます。

2013年12月21日〜2014年6月20日迄 順不同敬称略

◆ 人的協力

- 〈埼玉県〉 常陸民生ネパールツアーズグループ
- 〈東京都〉 滝和美、田山豊實、長井泉、丸山大樹
- 〈神奈川県〉 小林みよ子
- 〈長野県〉 白井千鶴子、柿島明子、菊池健介、株式会社北澤土建、清住栄子、有限会社佐藤新聞店、有限会社大和印刷、滝沢千栄子、田村由紀



「機織」 絵 マン

- 子、富田万里子、長野合同経理センター、根岸厚次・真貴子、松久よし子、宮入正法、ヒマラヤを愛する会、柳澤利文
- 〈海外〉
- ネパール ホテルサンセツトビュー・アルジュン・シン／絃子・トラチャン

◆ 基金・維持費・事業費

- 〈北海道〉 小野倫夫、串田長久、千葉八洋、中川洋子、水口馨
- 〈宮城県〉 森甲志
- 〈茨城県〉 魚津慶子、大井英臣、折本拓郎、藤井英雄
- 〈栃木県〉 森聖哉
- 〈群馬県〉 塚越雅幸、土屋邦夫、堀越利通、割田甚一
- 〈埼玉県〉 小沢昭信、小野美津男、斉藤節子、須田清、坪田美恵子
- 〈千葉県〉 青木洋、高橋節子、竹部愛子、武藤やよい、吉村芳江
- 〈東京都〉 池田圭伸、石田昭夫、今井正史、株式会社ウエック・トレック稲村道子、上原真知子・一茂、大和田一紘、岡田信一、小川陽子、尾身

ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何時も心に留めて下さり、感謝申し上げます。皆様方からのご寄附に対し、所得税法・法人税法上の優遇措置を受けることができます。以下に説明致しますので、今後ともご協力をお願い申し上げます。

ジャイチの基本的財源として

皆様よりいただいた寄附金を、ジャイチの公益活動を維持・継続していくための財源として、受け入れるものです。寄附金の用途・内容については、ホームページ記載の決算書等により、皆様にお知らせ致します。その中より余剰資金が発生した場合は、今までどおり基金として繰り入れていたします。基金は、ジャイチの財源を安定させ、ジャイチの活動をよりいっそう強固な活動につなげることが出来ます。

所得税法、法人税法の優遇措置

公益財団法人は、すべて税制上の特定公益増進法人となり、寄附していただいた金額は、下記の寄附金優遇措置の対象となります。

①所得控除
その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額が総所得金額等、退職、所得金額又は山林所得金額より控除できます。

②税額控除
その年中に支出した寄附金の合計額より2千円を差し引いた金額の40%が所得税額から控除されます。

上記優遇措置を受けるには基本、確定申告が必要です。(税法の改正等がありますので、詳細は税務署にお問い合わせください。)

郵便振替・銀行振込での募金

- お振込先
 - ◎郵便振替 00510-4-65434
 - ◎銀行振込 八十二銀行 丸子支店 (普)420577
 - 座名 公益財団法人 日本農業研修場協力団

カカニ・ブライター スクールの思い出



《アシッシュ・シュレスタ》

この学校に通学したことはとても良かったと思っています。生徒たちはなかなか遠くからも通っています。学校は設備も整っており、先生たちも授業のための知識や経験を持っていて、楽しい環境の中で生徒たちに新しい科目を教えるのに一所懸命頑張っています。学

生たちも皆まじめに勉強します。親たちも出来るだけ協力してくれれます。歌と踊りの技を教えてくれたり勉強以外に他の教科外のプログラムも一杯行います。学校は緑がいっぱいできれいな環境にあるので、観光客もたくさん訪れます。ですから私たちのこの学校はカカニで一番の学校として知られています。

しかし、僕はブライター学校はまだ完全な学校ではないと思っています。この学校に図書館はありません。科学実習室も建設中の状態です。周辺の環境も悪くなっています。この学校を良くするために皆で頑張らなければいけないと思います。時々木を植えるようなプログラムを行ったり、Road-drama (道路景観づくり) などにより環境意識を向上させるようにしていけば、私たちの学校は、ヌワコット郡でも一番の学校になるに違いないです。

現在、この学校にスクーパバスは一台しかありません。もう一台増やせば生徒たちの人数も増えるでしょう。時々PTA会議を開き、親たちの提案とアドバイスも受けるべきです。こうすれば、学校の運営や新たな計画の達成に役立ちます。僕はこの学校で勉強し、

嘉一・恭子、鎌田はなよ、河野節子、黒田秀基、木村武彦、木村慈子、滝和美・三希子、高橋伸迪、西岡巖、西重正博、二瓶幸子、野村明賢、正田英子、松島長久、松田重箕、三木三江子、守屋照美、山縣敏子

〈神奈川県〉
小林みよ子、島田正義、十河三郎、田中光弘、中川洋、丸山進治

〈長野県〉
井出守雄、有限会社うずら家、奥野恵子、小埜沢浩一、金子元昭、菊池健介、北澤純一、久保田寛人、小林淳、小林展子、斉藤一美、佐々木牧夫、篠原秀一、島田基正、鈴木佳快代、有限会社大和印刷、滝沢千栄子、武田順治、立岩寿一、土屋信子、株式会社東信ジャーナル井出正義、株式会社長門牧場代表取締役小林久雄、中澤知史、中島英男、長野県連合青果株式会社、中村彰、ネパールの曼荼羅・仏画展、細田圭一、松久よし子、増田シゲミ、松原邦彦、丸山幸雄、宮澤令行、宮下静子、民主党長野県第三総支部、横関絢子、依田窪南部ライオンズクラブ、ジャイチ事務所

寄付金箱
〈新潟県〉
帯瀬憲五、小森修

〈岐阜県〉
庄村敏
伊熊武夫、山梨加代子
〈愛知県〉
伊藤正裕、大森森次、尾上昇、小園四男、滝本美恵子、藤井久生、本田忠彦、村瀬政子、安田美奈子
〈滋賀県〉
岡田千尋、木田信次、ふくろう基金玉田盛一、松延宏昭、宮川一男
〈大阪府〉
北岡満、三尾和子
〈兵庫県〉
新海泉、玉岡昇治、匿名の方
〈和歌山県〉
中前孝啓
〈福岡県〉
山下きよし
〈大分県〉
寺澤侃
〈鹿児島県〉
保拓夫

◆ 寄附品

〈北海道〉
中川洋子
〈宮城県〉
林教子
〈群馬県〉
島田寛治
〈東京都〉
池田照子、植松こずえ、小川陽子、小澤久美子、尾身

恭子、川口律子、佐瀬萬亀、滝和美、西重正博、藤本紀子、山縣敏子、吉田赫子、渡辺誠三
〈神奈川県〉
田代譲
〈長野県〉
臼井千鶴子、有限会社美ヶ原燃料、加藤美幸、菊池健介、清住栄子、黒田悦子、小林久雄、斉藤一美、新貝昭文、有限会社大和印刷、滝沢英子、滝沢千栄子、田村由紀子、長門小学校子育て委員会、舟木公栄、宮下静子、松原邦彦、宮崎典子、矢島榮子
〈福井県〉
金森朗子
〈愛知県〉
白澤たづ子、港西小学校
〈滋賀県〉
苗村善和
〈兵庫県〉
丸尾信
〈福岡県〉
山下きよし
〈佐賀県〉
平尾紀美子
〈台湾〉
皆川恵娟

ありがとうございます。今後とも宜しく、お願いいたします。



下校時、グラウンドに集合した生徒たち

この学校から将来の階段を上ることを学びました。ですから、僕はいつでも必要な時この学校のことを助けたいと思っています。学校を運営することは簡単なことではありません。いろいろな時いろんな問題が起きるのです。そのような時に僕はいつでも助けてあげるよう待っています。僕が生きているまでこの学校のために活動をしたいと思っています。

この学校では現在十年生までの勉強ができます。もし、十二年生までの勉強ができるのであれば他の所に行く必要はなかったのですが、残念ながらそれがありません。

将来、僕の弟・妹たちはこの学校で十二年生まで勉強ができるようになることを願っています。



レカリ・パシファント
学校生活は
一生の思い出

《エリシュルンバ》

僕は五歳の幼い頃から一時間位ぐらい歩いてレカリ・パシファント学校に通い始めました。学校の上の方にはマクワンプール郡で一番標高の高いシンパンジャング(二四八八m)があり冬はとても寒いです。そして学校は北西にむいた斜面にあるので日当たりが悪く、頂上のシンパンジャングとダマン辺りに雪が降ると、そこから流れてくる冷たい風で手の指が冷えて、鉛筆がつかみにくくなることもあります。

そんな時、僕たちは薪を集めて火を焚いて手を温めていました。また、学校まで歩いて行くことが大変な時、お兄さん、お姉さんに背負ってもらって行ったことは一生の思い出になりました。

幼い頃、僕は友達といたずらが多くて、その癖をなくすために先生たちは僕に

しよつちゅう忠告してくれました。僕にとつてそれは嫌なことでしたが、今考えてみるとそれは僕のためでした。「生んだ親より運命くれる先生の方が大きい」(翻訳のまま)ということわざがありますが、その意味がわかる感じがします。

歩いて一時間かかる距離の学校に、足が痛くて時々遅刻したとき先生たちに叱られると辛い気持ちにもなりましたが、先生たちもい人ばかりでしたのでこうして卒業することが出来ました。学校が遠くて大変でしたが、学校にはたくさんの仲間がいて天国みたいで楽しかったです。

那が行った試験で一番良い成績をとり、賞をもらった時のことは今でも新鮮で一生の思い出になりました。

このように、僕の学生時代はあつという間に過ぎました。その時どきではいろんな苦勞もしたけれど今は満足しています。この学校で過ごしたことに誇りと同時に責任も感じます。

学校での十年間の経験や体験は、これから社会のため、組織のため、国のため、そして国際発展のため役立てられるといいです。

松浦 浩さんの追悼



故 松浦 浩氏
(マン・バドワール・シュレスタ画)

ジャイチの事業の柱でもあるカカニ実験研修農場の成果には、松浦浩さんの存在なくして語ることはできません。

松浦さんは、神奈川県下の農協の農業技術員として

松浦さんとの思い出

マン・バドワール・シュレスタ
(栃木市在住)

農場作業で日焼けして現地の人たちと変わらない肌色。そしてカカニの方言まで話す松浦さんと初めて会ったときは、とても日本人には見えませんでした。私は一九九五年九月からジャイチネパールに勤めました。国際的なボランティア組織での仕事は私にとって初めての経験でしたので、仕事を覚えるまで松浦さんには大変お世話になり

長年勤められ、早期に退職された後の一九九一年、その経験を請われて、ネパールの農山村部の農業開発事業に関わることになりました。当時のネパールの農家のほとんどは、稗、トウモロコシを中心とした自給自足の農業が行われており、農業収入が貧弱な家庭では子どもたちの教育を受けさせる機会にも恵まれない状況でした。こうした状況を改善するため、ジャイチが取

り組んだのが、カカニ地区での研修農場でした。松浦さんは、一九九八年までの足掛け八年間、現地での地域の農民と一緒に汗を流し、手作業で畑を整備して地域に適する農作物の試験栽培を続けました。特に、研修農場からカカニ地区に栽培が広がっているイチゴは、そうした松浦さんの努力が実った証と言えるものです。そのことが、農家の収入増大をもたらした。子どもたちが教育を受けることのできる環境の整備にもつながっているのです。

うになりました。そして1キロ二〇〇から三〇〇ルピー(当時の日本円で六〇〇円くらい)で農場内で売り始めました。ネパールの果物ではこの単価は初めて一番高いものでした。それをじつと見ていた周辺の農家たちが「来年は苗を買おうから分けて欲しい」と頼みに来ました。そして、十何人の農家たちが苗をもらって栽培を始めました。その次の年も何十人かが農場にイチゴの苗を頼みに来ました。三年目には誰も来ませんでした。それは、前年栽培を始めた農家たちが、自分で苗を増やして新しい農家たちに売っていたのです。そうして数年のうちにかカニ地域の何百人の農家たちは積極的に換金作物となるイチゴの栽培をするようになっていきました。

松浦さんの次の挑戦プロジェクト「ポカラでイチゴ栽培研究」は残念ながら体調不良により叶いませんでしたが、カカニ地域はイチゴ村と呼ばれるようになりました。松浦さんが長年流した汗のおかげで、経済的にも豊かになりました。松浦さんが植えたイチゴのランナーは代々まで延びて行くに違いありません。私たちの心に松浦さんの思い出はいつまでもにこりと生きているのです。お世話になったネパールの人たちとともに松浦さんの靈魂の永遠平和を祈っています。

《共に研修農場で働いたカミツエリンさんは当時を懐かしみ》
よく働いた人でした。仕事が終わって夕方になると一緒にお酒も飲みました。気持ちのやさしい人でしたが、仕事には厳しいところもありました。朝、仕事の始まる時間に遅れてくる人があると、もう来なくても良いと追い返したことがあります。時間にルーズなネパールの人たちに、決められたことはきちんと守るようにしてほしいという、強い願いがあったのでしょうか。ご冥福をお祈りします。

ました。必要なこと以外はあまり喋らない静かな態度の松浦さんは、いつも笑顔で現地の人たちに溶け込んでいて皆に好かれていました。ネパールのご馳走に「マス・チュウラ」と言う人気の食べ物があります。マスは肉、チュウラは干した「打ち米」のことです。この言葉がマツウラとよく似ているので、宴会で仲間たちからマスチュウラさんと呼ばれて大笑いしていました。

作物の研究に打ち込み、現地の研修生たちは土日・祝日に休んでも自分は休まずに畑でいつも何かをしていました。ある年、松浦さんがイチゴ畑の面積を広げました。ということは、長年試験を重ねた結果としてイチゴが成功したのです。農場の畑に植え残ったイチゴの苗を研修生たち始め、その周りの農家たちに無料で差し上げようとしたのですが、研修生も含めて誰も受け取らなかつたのです。「こんな面倒くさい栽培方法は自分たちには出来っこない」と言われました。

栽培方法だけではなく、その販売までの流れをモデルとしてやって見せたのです。それが松浦さんの長年の努力の素晴らしい結果だと思えました。松浦さ



▲1993年秋、イチゴの試作を始め研修生に指導する松浦さん(左)



▲松浦さんへのお悔やみのメッセージを手にしたカミツエリン氏とご家族

＊お悔やみのメッセージ
「松浦さまの奥様へ ナマステ。ご主人様が亡くなられて、本当に悲しいことです。一緒に働けて、いろいろ教えていただいたこと、忘れられません。天国へ出発された命は、ずっと平和で過ごせるように、また、奥様が悲しみを乗り越えられるため祈ります。」
カミツエリン・シエルパと家族より(カカニ・ネパール)

書き損じハガキを送って下さい。 未使用も歓迎。

年賀ハガキの書き損じ・余りも歓迎

(古いものもOKです)
(切手に交換し、通信費に役立たせていただきます。)

集めています

寄付品		使 途
文房具	定規・鉛筆など	学校生徒用
毛糸	帽子を編みます	レカリ・バシファント学校1・2年生用
	編みぐるみ・タワシなどのバザー用品をつくります	
布	はぎれ	〃
古切手	換金します (未使用切手も歓迎)	ネパールの学校の運営費 (切手の周りを5ミリ残してください)
日本手拭・タオル	未使用のもの	ネパールの学校用ほか



▲大勢の皆さんから祝福されるウッタム君・しのぶさん

事務局だより

▼ジャイチ

- 7月 ・機関紙51号発送
- 9月 ・国際交流フェスティバルinSaku参加
- 11月 ・ジャイチツアー実施(2~9日)
- 12月 ・理事会 平成28年度上半期事業報告等
・機関紙52号企画・編集

バザーを
ありがとうございました。
国際交流フェスティバル
in Saku
(長野県佐久市)

▼ジャイチネパール

- 7月 ・両校夏休みに入る
・ブライター学校の廊下・排水設備工事
・レカリ校の周りにフェンスを設置。14セットのベンチが郡から支給される。
- 8月 ・ブライター学校のスクールバス故障修理・給食製造社と契約締結
- 9月 ・2学期の試験。クイズコンテスト
- 11月 ・デザインとティハール祭休暇
・会計監査報告
- 12月 ・ジャイチツアー案内
・ブライター学校でオーストラリアの大学生4名が1週間ボランティアで教育活動

昨年末の十二月のとある日、新生活をスタートさせた二人がいます。ジャイチが最初に開校したバシファント学校の卒業生である「ウッタム・タパ君」が、日本で「しのぶさん」という良き伴侶を迎えたのです。ウッタム君は、かつて長野県内の農林高校に留学した経験があり、一旦帰国した後、数年前に日本語学の勉強や医療関係の資格取得をめざして来日し、日夜勉強に励んでいます。そんな中で愛が育まれていたようです。

当日は、上田市内で、二



人と交友の深いメンバーの面々が手作りで会場を設営して、趣向を凝らした演出や手料理を囲んで、実に四時間におよぶパーティでお二人の門出を祝いました。JAITIからも関係者が招かれ、お二人の末永い幸せを祈らせていただきました。

募集予告

「JAITIネパールの農場と学校訪問の旅」

◆日程 十月下旬から六泊八日の予定

◆旅行代金

お一人様三十万円の予定

交通費(航空機はエコノミークラス)、宿泊費、食事代を含みます。但し、国内の交通費と海外旅行保険は別途になります。

◆最小催行人員 十名

◆企画 ジャイチ

◆主催 株式会社西遊旅行



物語者のお知らせ

ご冥福をお祈りしますと共に今までのご支援に感謝いたします。

山下きよし様 福岡県宗像市 十六年一月

坂本 華子様 東京都豊島区 十六年六月

竹澤 和泉様 東京都西東京市 十六年七月

富田源太郎様 愛知県名古屋市中区 十六年十一月

舟波 誠様 東京都練馬区 十六年十二月

お願い

ネパールへのジャイチの荷物運搬(主に学校の布カバン・文房具等)のお手伝いをしてくださる方是非ご連絡下さい。



編集後記

カカニ・ブライター学校の校門前に昨年の春設けられたキャンティーン(食堂)には、お昼時間になると児童たちが駆けつけてきます。手には5ルピー(5円ほど)のお札を数枚握りしめています。そして、スूपやスナックなどを注文しています。かつて、十円玉を大事に握って、近くの駄菓子屋の店先に並べられた飴玉や煎餅の前で、何を買おうかとワクワクしていた頃を思い出しました。あの頃は包装紙に包まれているものは少なく、しわだらけのおばあちゃんが手づかみで、少しおまけもあったような。

今は、ほとんどの食べ物が包装されるようになり、ネパールでも、この包装紙がゴミとなって至るところに散乱するようになっていきます。衛生面と環境面の調和が求められます。